

人間科学科

POINT 1



「人間」とは何か？

3つの専門領域を横断的に学べる

「生命系」「身体文化系」「社会学系」の3つの専門領域から、複数の教員による領域横断的な学びを通じて、好奇心と探究心を刺激しながら「人間とは何か？」を追究します。学生自身の選択による自由な学びを保障しています。

POINT 2



社会学系科目も学べる

スポーツ・健康・環境・福祉に加え、ジェンダー／セクシュアリティ、労働、貧困、不平等と差別、グローバル化する社会とその課題などについて学ぶことで、人間の行動や社会のしくみについて深く考え、社会問題に向き合える力を育成します。

POINT 3



多様なテーマから、自分の学びを発見

「スポーツのルールから時代や世界を見つめ直す」「東日本大震災の教訓としてのいのちの意味を考える」「カンボジアでの運動会支援ボランティアに参加する」など多様な視点・科目の中から自分の学びを発見できます。

POINT 4



フィールドワークを重視

教室の学修だけでなく、実際の現場に足を運ぶ「フィールドワーク」を重視。「いのち(生命)」「からだ(身体文化)」「まわり(環境、社会)」に関連したテーマに沿ったフィールドで学びを深めます。

履修スケジュール

(1年次前期の場合)

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1		コーチング論				
2	英語	公衆衛生学	英語	ムーブメント教育・療法	人間科学研究論	
3	スポーツ文化(障がい者の体育・スポーツ)	社会学入門(入門科目)	プロゼミ		日本の文化と文学	フィールドワーク
4		障害児運動支援学		流域を知る	環境とまちづくり	
5						

■ 専門科目 ■ 共通教養科目 ■ 外国語科目 ■ 自由履修科目(講義バイキング)

卒業に必要な単位

(合計124単位以上)

		小計	合計	
共通教養科目		20単位	124単位	
外国語科目		4単位		
専門科目	学科基礎科目	プロゼミ 4単位		
		導入科目 4単位		
		入門科目 4単位		
		演習		8単位
		学科選択専門科目		12単位
	卒業研究	4単位		
自由履修科目(講義バイキング)		64単位		

PICK UP



制野ゼミナール



ムーブメント教育・療法

人間科学科

1年次

自由に羽ばたき始める

大学で学ぶための基礎スキルを少人数クラスで身につけます。また導入科目には専門領域が異なる3人の教員がテーマを決め、横断的な授業を行う「人間科学研究論」とさまざまな仕事の現場を知り、将来の進路について考える「人間科学キャリア論」があります。

2年次

関心の幅を広げていく

人間科学科が掲げる「生命系」「身体文化系」「社会学系」の3つのキーワードに沿った専門科目の履修が始まります。複数の教員による領域横断的な学びを通じて「人間とは何か?」をさまざまな角度から追究していきます。

3年次

ますます興味を広げ、深めていく

「フィールドワーク」は、教室での学修だけでなく実際の現場に足を運ぶことを重視しています。「いのち」「からだ」「まわり」に関連したテーマに沿って、さまざまな場所に向き、関心のある分野での学びを深めていくことができます。

4年次

4年間の集大成に取り組む

2年次から履修できるゼミナール(人間科学論演習)などで興味を持ったテーマを選び、4年間の集大成となる卒業研究に取り組みます。

学科専門科目		1年次	2年次	3年次	4年次
学科基礎科目	プロゼミ	●プロゼミ			
	導入科目	●人間科学研究論 ●人間科学キャリア論			
	入門科目	●遊戯論 ●いのち・身体論入門 ●人権とは何か ●生涯学習論 ●人類学入門		●野菜づくり入門 ●スポーツ文化論入門 ●社会学入門 ●社会調査入門 ●現代世界入門 ●メディア論入門 ●地域を知る	
学科選択専門科目	生命系	●生命倫理学 ●生命論 ●医療人類学 ●衛生学 ●動物論 ●学校保健学 ●健康管理学概論 ●障害児運動支援学 ●ムーブメント教育・療法 ●発育発達論	●生命の政治学	●エコロジーと人新世(アントロポシン) ●現代社会と心身問題 ●障害・健常を考える ●福祉共生と身体運動 ●健康体操学 ●運動生理学 ●スポーツ医学と救急処置 ●スポーツ栄養学	
	身体文化系	●身体論 ●文化と演技 ●表現運動学 ●野外教育論 ●現代の宗教 ●食の社会学・文化研究 ●スポーツ人類学 ●コーチング論 ●スポーツ心理学	●フットボール論 ●スポーツ方法学実習(ストレッチ&ダンス) ●スポーツ方法学実習(バドミントン) ●スポーツ方法学実習(卓球) ●スポーツ方法学実習(体づくり運動) ●スポーツ方法学実習(陸上競技) ●スポーツ方法学実習(フットサル) ●スポーツ方法学実習(柔道)	●イベントパーティの作り方 ●フィールド・ライティング ●アスリートの自伝・伝記を読む ●シャーマニズム・アニミズム論 ●映像人類学 ●地域スポーツ推進の理論と実践 ●スポーツトレーニング論 ●運動処方論 ●体育測定・評価 ●運動学 ●スポーツ方法学実習(バレーボール) ●スポーツ方法学実習(サッカー) ●スポーツ方法学実習(テニス) ●スポーツ方法学実習(器械体操) ●スポーツ方法学実習(バスケットボール) ●スポーツ方法学実習(ソフトボール)	●現代社会とジェンダー ●ジェンダー労働論 ●逸脱とは何か ●不平等論 ●環境社会学 ●マイノリティと言語 ●スポーツ方法学実習(水泳)
	社会学系	●グローバル社会学 ●質的調査法の基礎 ●合意形成と対話のデザイン ●差別論 ●コミュニケーション・共同体論 ●都市論 ●群島論 ●地域流域社会学 ●アジアの社会と文化 ●現代ヨーロッパ社会論 ●クレオール論 ●音楽の社会学・人類学 ●大衆音楽の社会史 ●楽器の文化学 ●社会教育論 ●スポーツ社会学 ●情報メディアと資本主義 ●文化の社会学	●社会学理論 ●ジェンダーとメディア ●貧困の社会学 ●経済と人間社会 ●災害社会学 ●言語と社会 ●移住論	●暴力論 ●現代社会と労働 ●環境とまちづくり ●沖縄の社会と文化 ●社会調査の方法 ●開発とジェンダー ●福祉社会学 ●負債の社会学・人類学 ●現代社会とNGO・NPO ●比較社会学 ●統計データの活用 ●セクシュアリティをめぐる諸問題 ●政治社会学 ●社会運動の社会学 ●アイヌ民族論 ●スポーツマネジメント論 ●現代社会とジェンダー ●現代の家族 ●社会意識論 ●ソーシャルデザイン論 ●ラテンアメリカの社会と文化 ●スポーツマーケティング論 ●ジェンダー労働論 ●逸脱とは何か ●不平等論 ●環境社会学 ●マイノリティと言語 ●都市の社会史	
フィールドワーク	●フィールドワーク(地域環境) ●フィールドワーク(ヨーロッパ)	●フィールドワーク(ハワイ)	●フィールドワーク(市民運動と自治) ●フィールドワーク(身体表現) ●フィールドワーク(森と汀) ●フィールドワーク(生涯学習)		
演習・卒業研究	ゼミナール	●現代におけるホテルと人の文化関係論 ●鶴見川のシマドジョウ ●部活動における体罰問題の実情と課題 ●一輪車トレーニングと平衡感覚の関係 ●J-POPにみる若者意識の変化 ●奨学金がもたらす貧困 ●飲食店における補助犬の受け入れ ●サッカー日本代表戦における集客要因 ●ジェンダー意識における保健体育科教育の在り方 ●現代の若者の保健行動についての一考察 ●高血圧症におよぼすマッサージ効果 ●若者の人間関係とSNS ●日本の食料自給率と食育 ●冤罪の構造と被害者の世界 ●隠喩としての発酵	「ゼミナールテーマ」 ●野生の学び舎を創造する ●生態=環境哲学(エコソフィー)と抵抗の思想 ●暮らしやすい社会を創る ●世界を救う!?スポーツの未来像を探る ●生命と環境 ●スポーツをマネジメントする ●スポーツ科学・入門 ●ひとはなぜ、まなぶのか? ●遊びの場を共に創る ●ジェンダー/セクシュアリティと現代社会 ●グローバル化する社会とその課題 ●共に生きるを考える~問いのたて方を知り、convivialな場を創る ●「マルチ」の思想を再考する ●文化と社会意識		
共通教養科目					
外国語科目					

Pick Up授業

スポーツ人類学

サッカーは現在もっとも世界的に広範な競技文化を持つ世界化されたスポーツです。そのことによって、サッカーを論じ、批評することは、限りなく「世界」そのもののありようを俎上に載せ、分析・批評することに近づきます。この授業は、サッカーにおける原初的な運動性の深みへと潜行し、人間の遊戯的身体のもっとも創造的な発現としてのサッカー的身体を通じて、現代スポーツの置かれた窮地と可能性を展望します。

Pick Up授業

現代社会とジェンダー



「ジェンダー」とは、ある社会における「性」(性別、性愛、性差など)に関する知識の総体のことをいいます。この授業では、ジェンダーに関する現象を理解するための基本的な概念、「性差」と「性役割」について学びます。これらの概念を用いて、現代日本で観察されるジェンダー現象を解きほぐし、その問題性について考察を深めていきます。